

神戸で夏の | 2024 | 生きものさがし

夏休み生きものクエスト

結果発表

神戸市には、六甲山や里地里山、瀬戸内海や河川・池沼など、豊かな自然があり、その中でさまざまな生きものが暮らしています。

2024年6月1日から8月31日の間、市民のみなさまに参加いただき、スマートフォンアプリを活用した生きもの調査を行いました。

どのような生きものが見つかったでしょうか？



今回の調査では、神戸市の自然の豊かさをを知るものさしとなる里地里山の生きもの、神戸で見られる外来の生きもの、大量発生が心配される生きもの15種を調査対象としました。調査の結果、428人の参加者のみなさまのおかげで、1,023件の情報（うち調査対象情報は876件）が集まりました。また、クエスト達成者は76名でした（調査対象のうち3種投稿すれば達成）。

調査に使ったアプリ Biome (バイオーム)

今回の調査で活用した「Biome (バイオーム)」は、身の回りの生きものの写真を撮影・投稿することで自分だけのコレクションを作ったり、ほかのみんなが集めた生きものを楽しむことができるスマートフォンアプリです。

写真を撮った生きもの名前を教えてくれる「名前判定 AI」などの機能があり、アプリを通して集められたデータは、調査や研究など、地球上の生きものや環境を守る活動に活かされています。

※ Biome (バイオーム) は株式会社バイオームが開発運営するアプリです

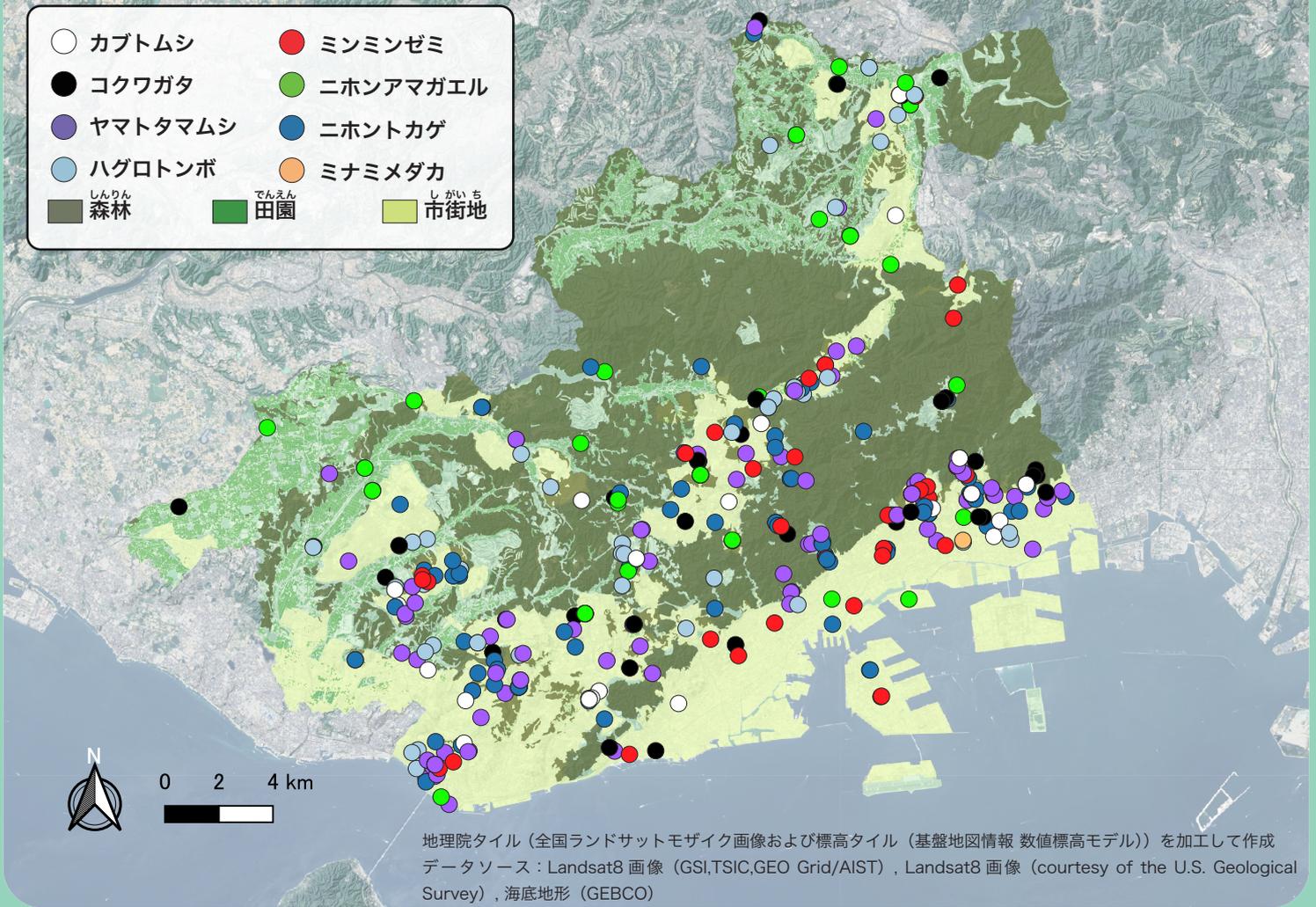


ダウンロードはこちら！



さとちさとやま い 里地里山の生きものたち

※地図上の点は調査期間内に神戸市内からアプリ「Biome」に寄せられた各対象種の投稿のうち、写真情報などから調査対象として再同定した投稿の登録地点を示します



さとちさとやま

里地里山とは農業や林業などの人の営みと自然が関わり合うことで生み出された自然環境

のことで、田んぼや畑などの農地、ため池や雑木林など、様々な環境が集まるこの地域には、地域固有の生きものも多く生息していました。しかし現在、都市化や農業・林業の担い手不足等により里地里山が管理されずに荒廃し、そこに暮らす生きものたちも少なくなりつつあります。この調査では里地里山の生きものたちの分布状況を確認し、得られた結果は、里地里山を保全していく取り組みに役立っています。



カブトムシ
42件

樹液の出ているクヌギやコナラなどの木でよく見られます。調査の結果、森林付近の公園で多く発見され、市街地の緑地でも発見されました。



コクワガタ
66件

クワガタの中では小型の種類で、樹液の出ているクヌギやコナラなどの木で見られます。調査の結果、森林付近の公園や、大型緑地の周辺などで多く発見されました。



ヤマトタマムシ
101 件

みどりいろ かがや からだ あか たてすじ
緑色の輝く体に赤い縦筋があ
る宝石のような昆虫で、エノ
キやケヤキの木で見られます。
ちょうさ けっか しんりん こうえん りょく
調査の結果、森林や公園・緑
地など、比較的広い範囲で多
く見つかりました。



ハグロトンボ
56 件

ま くる はね
真っ黒な翅をピツリと重ね
て止まる姿が印象的なトンボ
で、流れのゆるやかな河川や
水路で見られます。調査の結
果、市内の河川や川沿いの水
路等で多く発見されました。



ミンミンゼミ
51 件

「ミンミンミン…」と鳴く
ゼミで、平地よりも森林付近
で多く見られます。調査の結
果、山間部で多く発見されま
した。一部、須磨海岸やポー
トアイランド等の市街地でも
発見されました。



ニホンアマガエル
59 件

せなか いろ おも みどりいろ
背中の色は主に緑色ですが、
周りの色に合わせて、灰色、
茶色などに変えられます。水
田や水路、河川敷等で見られ
ます。調査の結果、水田、河
川敷等で多く発見されました。



ニホントカゲ
87 件

せいたい こうたく ちやかつしよく
成体は光沢のある茶褐色です
が、幼体は鮮やかな青色の尾
を持ちます。調査の結果、公
園や人家等の石垣で多く発見
されました。



ミナミメダカ
2 件

なが せいの いろ か せん すいろ
流れのゆるやかな河川、水路
で見られます。神戸市レッド
データのCランクに指定され
ています。調査の結果、野外
に生息していると思われるも
の発見はわずかでした。
※左写真は今回の調査外で撮影されたものです

神戸市北区の里地里山が「自然共生サイト」に認定されました



2023年10月、神戸市北区山田町の里山林・棚田・ため池（約180haの地区）が、環境省より「自然共生サイト」に認定されました。

自然共生サイトとは、世界目標である「30 by 30 (2030年までに各国の陸と海の30%以上を保全しようとする目標)」の実現のため、環境省が認定する区域のことで、企業や団体、自治体等によって生物多様性の保全が図られている区域のことです。

当エリアには、希少な生きものをはじめ、多種多様な動植物が生息・生育しており、市民団体や大学、行政等が連携し、里地里山の保全や再生に向けた取り組みや調査を行っています。

が いら い い 外来の生きものたち

人間の活動によって他の地域から持ち込まれた生きもの（外来種）を呼ぶ。外来種の中には、在来の生きものに影響を与えたり、農業被害を与えるなど人間に影響をおよぼしてしまうものもあるため、早期に対策を行うことが重要です。この調査では、外来の生きものの分布状況や分布が拡大しているかを確認し、得られた結果は外来生物対策に役立てます。

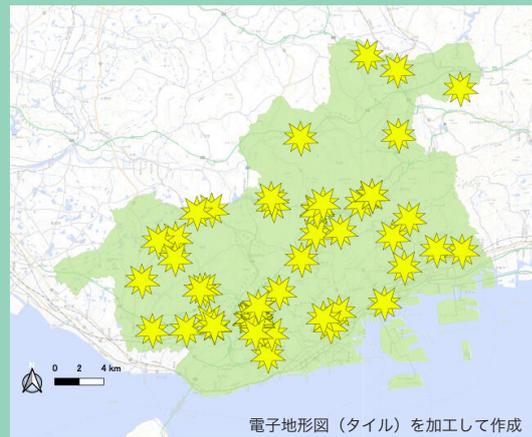
オオキンケイギク

55 件



北アメリカ原産の外来種で、特定外来生物に指定されています。

5～7月に鮮やかな黄色～オレンジの花を咲かせます。過去に道路のりめんなど、法面等の緑化に使われていたが、繁殖力が強く、公園や河川敷などに分布が拡大しています。調査の結果、市内全域の公園や河川敷などで発見されました。



電子地形図（タイル）を加工して作成

ツヤハダゴマダラカミキリ

11 件



中国や朝鮮半島原産の外来種です。在来種のゴマダラカミキリによく似ていますが、「はねの付け根部分がなめらか」等の特徴から見分けることができます。幼虫は公園のアキニレ等の樹木の中を食べ、被害が進むと樹木は枯れてしまいます。

ツヤハダゴマダラカミキリ（外来種）



胸部に白い斑紋がない

なめらか



電子地形図（タイル）を加工して作成

2022年、2023年のクвест調査では、六甲アイランド（東灘区）内のみで発見されましたが、今回の調査の結果、六甲アイランド以外（灘区）の公園でも発見されました。神戸市が現地調査を行った結果、被害が確認されたため対策を実施しました。今後も調査を継続し、みなさまからの情報を外来生物対策に活用していきます。

クビアカツヤカミキリ

けん
3件



ちゆうごく ちようせんはんとう げんさん がいらいしゆ ぜんたい こうたく くるいろ くび きょうぶ
中国、朝鮮半島が原産の外来種です。全体が光沢のある黒色で首（胸部）
あかひがいのが特徴です。幼虫は主にサクラやウメ、モモの木の内部を食害
し、被害が進むと木は枯れてしまいます。

ようちゆう き なか た なか き
幼虫は木の中を食べていく中で、フンと木
くずの混合物（フラス）を大量に出します。
フラスは褐色のカリントウ状で、やや硬い
のが特徴です。



2023年のクエスト調査では発見されませんでしたが、今回の調査の結果、北区に集中して発見されました。今後市内で分布が拡大することが心配され、早期発見・早期対策を進めていく必要があります。発見時の通報にご協力ください。

クビアカツヤカミキリのフラスかも？と思ったら

つうほう だんわ かんきょうきょく し ぜんかんきょう か
通報フォーム、メール、電話のいずれかで、環境局自然環境課まで
お知らせください

✉ biodiversity@city.kobe.lg.jp

☎ 078-595-6216

※メール送付の際は、確認場所をご記入のうえ、写真を添付してください。



けん しきょうつう つうほう
県・市共通 通報フォーム

がいらいせいぶつてんじ 外来生物展示センター

がいらいせいぶつてんじ
外来生物展示センターは、外来生物問題の普及啓発に特化した日本で唯一の
こうせつしせつ けんがくむりよう
公施設です（見学無料）。

とうしせつ
当施設には、オオサンショウウオ（交雑種）やセアカゴケグモ等の普段見ること
のできない外来生物の生きた個体を飼育・展示している「生物飼育棟」や、
アライグマやヌートリア等の製、ヒアリやクビアカツヤカミキリ等の標本、
がいらいせいぶつ ひがいの どうが しやしん てんじ
外来生物による被害の動画・写真などを展示している「展示ホール」があります。
また、せんもんいん がいらいせいぶつ
専門員が外来生物についてわかりやすく解説し、外来生物問題について
くわ まな
詳しく学ぶことができます。

けんがく よやく など あんないなど しゅうさい
見学の予約、イベント等の案内等の詳細は、ホームページ（右の二次元コード）
で確認ください。

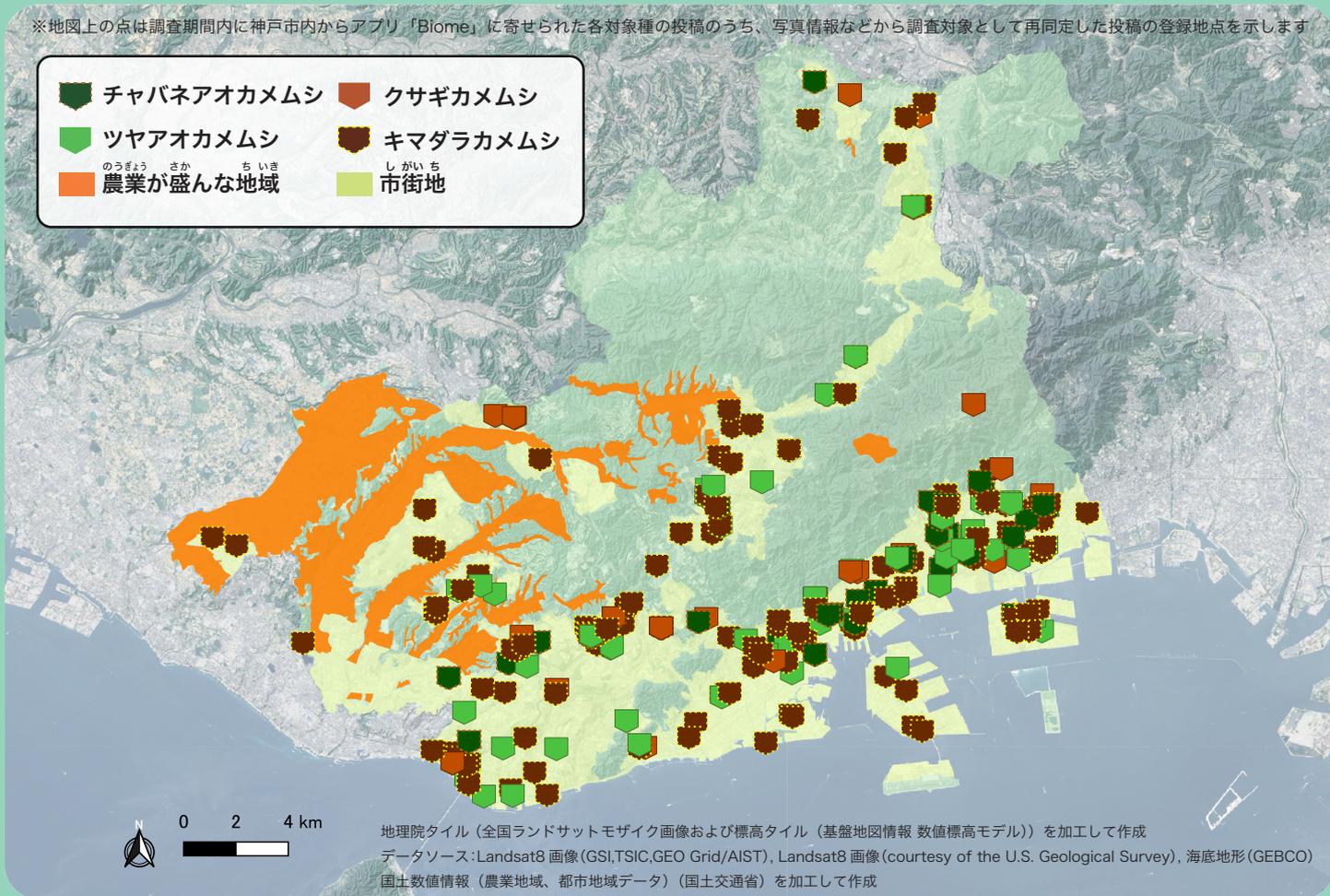


◀ 詳しくはこちら

大量発生！カメムシのなかま

※地図上の点は調査期間内に神戸市内からアプリ「Biome」に寄せられた各対象種の投稿のうち、写真情報などから調査対象として再同定した投稿の登録地点を示します

 チャバネアオカメムシ	 クサギカメムシ
 ツヤアオカメムシ	 キマダラカメムシ
 農業が盛んな地域	 市街地



目的

2023年、神戸市を含む全国で、モモやナシなどに被害を及ぼす果樹カメムシ類（果樹や果実に被害を与えるカメムシ）が大量発生し、都市部でも多く見られたことで大きな話題となりました。今回の調査では、2024年にも大量発生が予想される在来の「果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）」と、近年分布が拡大している外来カメムシ（キマダラカメムシ）を調査の対象としました。

結果

在来の果樹カメムシ3種は主に市街地で多く発見されました。一方で外来のキマダラカメムシは市街地に加え、農業が盛んな地域でも比較的多く発見されました。その要因として、種ごとの見つけやすさの違いや好みの樹木の分布状況、調査の時期・時間帯などが考えられますが、はっきりとは分かりませんでした。



チャバネアオカメムシ
48件



ツヤアオカメムシ
80件



クサギカメムシ
36件



キマダラカメムシ
174件